

トピックス

郵政博物館における電気通信資料活用の試み

明治改元150年企画展「THE STEAMPUNK—螺子巻奇譚—」より

井村 恵美

① 電信それは魔術か科学か？！

古代から人は「より遠くのだれか」とつながる術を探求し続け、狼煙や手紙による伝達に加え 19 世紀には「電信」が生まれた。幕末のペリー来航のころには、すでに蜘蛛の巣 (WEB) のように張り巡らされた電信網で世界は一つにつながっていたことは驚きである。

電信が日本に渡来し約150年。さて、現在の通信事情はどうだろうか？

スマートフォンなどを介した無線通信は日常になくてはならないものになり、いつでもどこでも移動しながら連絡可能な通信網の中で私たちは生きている。現代人には当たり前の通信手段も、150年前の人々にとってそれは摩訶不思議な魔術のようだったことは、当時の記録や電信開業の宣伝文句などを見ても明らかである。

郵政博物館（東京都墨田区）では、当時の人々が感じた驚きや発明者のひらめきを黎明期の電信・電話に関する資料から体感してもらいたいと、「電信それは魔術か科学か？！」というコピーに乗せて謎解き形式で展開する企画展「THE STEAMPUNK—螺子巻奇譚—」[会期：2019年1月1日（火・祝）から4月7日（日）まで]を開催した（図1）。

本展協力機関として、株式会社横須賀テレコムリサーチパーク無線歴史展示室、横須賀市自然・人文博物館、公益財団法人 三笠保存会、墨田区立東駒形コミュニティ会館図書室と連携を図り、資料提供のほか講演会開催、専門的分野に関するご教示を賜った。

不思議さを演出するため、展覧会名はあえて「電信の資料展」などダイレクトなものせず、新しい動力を用いた時代のイメージを象徴する概念として「スチームパンク⁽¹⁾」、歯車を用いた資料が多いことからサブタイトルを「螺子巻奇譚」とし、メインビジュアルは空想科学小説のような雰囲気を伝える仕掛けとして架空の飛行船「テレグラフ号」を設定。約 120 点の展示資料を介して船内でモールス通信の発明者サミュエル・モールスに出会うまでの謎解きが繰り返



図1 展覧会ポスター (illustration Naffy)

広げられる場の演出を行った（図2）。

② なぜ郵政博物館で電気通信なのか

当館は開館117年を迎え、郵政事業を中心に約197万点の収蔵品を管理しているが、資料群の一つに電気通信資料がある。

電気通信資料を収蔵するきっかけは、1899（明治32）年に電気試験所所長であった浅野応輔が、同所で保管・開発した機器類を当館の前身である通信省（通信・交通・運輸全般を管掌）の参考品室陳列所に移管したことに始まる。当館ではその後1952（昭和27）年で日本電信電話公社が設立されるまでの電気・電信電話・無線に関する資料を長く収集しており、表1の通り物品のほか図書や写真関連の資料も収蔵している⁽²⁾。



図2 展示会場

	区 分	資料概要	点 数
1	一般資料	郵政事業、絵画、駅通、電気通信ほか	約74,400
2	切手資料	日本・外国切手、葉書類	約1,844,000
3	図書資料	郵政事業・電気通信関連図書、近世文書、絵画・図面類	約41,200
4	写真資料	郵政事業、電気通信ほか	約12,400
総計			約1,972,000

表1 郵政博物館収蔵資料概要（2019年3月現在）

しかしながら近年、展示等は郵政三事業を中心に展開しており、電気通信資料を紹介する機会を得られずにいたほか、通信総合博物館時代はNTT部門に貸与していた期間が長かったことから当館での調査は不十分でありデータベース化も未着手である⁽³⁾。そこで明治改元150年に合わせて、我が国の近代化を知る資料群として重要なこれらの資料に光を当てた展覧会を企画することで広くコレクションの存在を周知することとした。

また、展示に際しては、機器類に偏らないよう電報、錦絵など紙資料などとともに紹介したほか、できるかぎり歴史的事件の裏に隠された電信とのかかわりを示し、モールス符号に関する音声データ（タイタニック号の救難信号など）を製作したほか、実際に電鍵に触れるコーナーなども併設することで立体的に電気通信への理解を深めるよう努めた。

さらに詳細が明らかになっていなかった機器類の記録を作成。文献や過去の写真資料との突合を行い資料のリスト化を試みた。一点ずつスケッチを行い、機器のメーカーを記した銘板なども詳細に記録した。重要文化財指定品など特に重要な資料については、当館で1996（平成8）年から若井登氏（元電波研究所所長）をはじめ、電気通信の専門家との共同研究で明らかになっ

1 スチームパンクとは、ジュール・ヴェルヌなど19世紀の空想科学に影響を受けた世界観の呼称。1980年代に勃興した概念で、現在ではファッション、アニメーション、映画などSFのサブジャンルとして定着している。蒸気機関以降の世界を中心とし、イギリスのヴィクトリア朝やエドワード朝の時代背景をベースとしている。日本では明治・大正期の雰囲気を中心に据えることが多い。

2 井上卓朗「郵政資料館収蔵資料概要」（『郵政資料館 研究紀要』創刊号、2010年3月）

3 井上卓朗「郵政博物館の発足について」（『郵政博物館 研究紀要』第5号、2014年3月）

た報告書をベースに確認を行った⁽⁴⁾。

③ 展示構成と主な展示品

本展では展示品を約120点に絞り（表2、本稿末）、時代は幕末のペリー来航から関東大震災後のラジオ導入までを中心として構成した。中でも今回は、「世界の最先端技術」を表現するため、国産品を中心に据えるのではなく収蔵品の中でも渡来品を中心とした。展示演出として、各章を飛行船の室内として表現したため、以下室名で表記する。

(1) オープニング・エンディング

まず、導入として来館者に電信が誕生した時代背景や科学の面白さを身近に感じてもらえるよう19世紀の空想科学小説ジュール・ヴェルヌ作『海底二万海里』（1870年）などの小説のほか、世界の発明に関する図鑑の展示を行った。そのほか、展示のキーワードをあらわす映像を製作し、展示の導入とした。最後に展覧会のメッセージを伝える空間として、動画によるエンディングコーナーを併設した。

(2) 電信室—不思議な形の多様な電信機—

幕末の日本には海を越えて西洋の最先端技術の波が押し寄せていた。それまで飛脚や旗振りによる通信手段しかなかった日本において、電信は大きなインパクトを持つもので、例えば、幕末に榎本武揚は派遣先のオランダで電信機を持ち帰ったほか、勝海舟は外国からの献上品を動かし、佐久間象山は電気に関する機器を自作して実験を繰り返していたのである。そんな中、各国が日本との開国交渉のために献上した品物の中に電信機があった。サミュエル・モールス（アメリカ）のモールス通信発明の10年後、1854（嘉永7）年にペリー提督が日本に電信機を献上している（図3）。幕末から明治初期の日本には多種多様な機器がもたらされ、情報通信の重要性を痛感した明治政府は、郵便や鉄道敷設より早い1869（明治2）年に公衆電信を開業し、近代化の第一歩を踏み出したのである。

日本に渡来した初期の電信機は、各国の開発競争真っただ中のもので、使い方一つとっても様々な形態があり興味深い。例えばエンボス式のモールス電信機（ペリー献上品）、指字式電信機（ブレゲ指字式電信機、単針式電信機（図4））、印字式（ディニエ印字式電信機）、音響

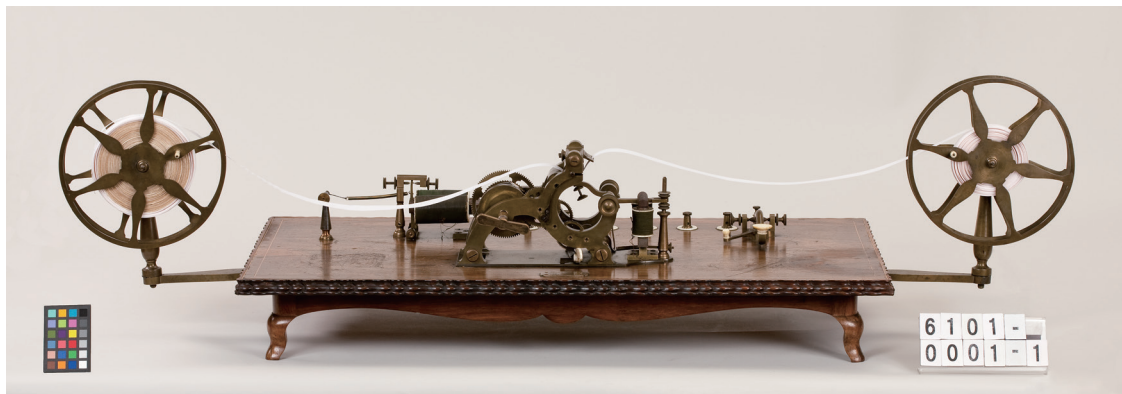


図3 ペリー将来 エンボッシング・モールス電信機（アメリカ） 1854（嘉永7）年 重要文化財

4 電気通信共同研究報告『黎明期の通信に関する調査研究報告書』（総務省 郵政研究所、2003年3月）

式（音響器）などであり「電信室」にはこれら黎明期の電信機を一同に配置したほか、すでに「西南戦争」は電信による情報戦であった実例として、当館に残る電報や暗号文に加え、電信網の整備を物語る当時の電信柱に関する資料（図5）を展示した。

また、ダニエル電池や佐久間象山作のボルタ電池などを紹介し、ペリー献上品の電信機等に関する動力についても関連づけて表現した。



図4 単針式電信機（イギリス）1872（明治5）年ごろ使用



図5 東海名所改正道中記「境木の立場 程か谷 戸塚迄二り九丁」1875（明治8）年

（3）電話室—モシモシと遠くへ届く人の声、電話という名の不思議な道具—

姿が見えない遠くの人と、電信線を通じて会話ができる——。そんな夢のような電話という発明のきっかけは、1837（天保8）年に遡る。ペイジ（アメリカ）が、磁力が鉄片をひきつけ音を発生させる「流電音」を発見し、その後1861（文久元）年にはフィリップ・ライス（ドイツ）が、どんな音でも伝送し再生できることを証明。自作の装置「テレフォーン」理論を発表したが、1876（明治9）年アレキサンダー・グラハム・ベルの発明まで、対話のできる実用的な電話機はなかったのである。そんな中驚くべきことに日本では、1877（明治10）年には国産1号機が開発されている。

このコーナーでは国産品のほか、研究開発のために日本にもたらされた草創期の各国電話機を展示し多様なスタイルについて紹介した。

（4）無線室—世界初、無線が海を越える！マルコーニの大発明VS日本の独自開発—

無線の世界では、1895（明治28）年にグリエルモ・マルコーニ（イタリア）が世界初の無線電信を発明、1901（明治34）年には大西洋横断通信を成功させている。

一方日本では、1897（明治30）年に逓信省電気試験所の技師松代松之助を中心に独自の無線開発に取り組み、1903（明治36）年には約1,000kmの通信距離を可能とした「三六式無線電信機」を完成させ、日露戦争の日本海海戦で成果を発揮している。そのほか世界に先駆けて

「TYK式無線電話機」の発明にも成功。通信の分野で世界をけん引した時代があった。

展示場には、大型の「TYK式無線電話機」を運び込んだほか、船舶模型などをおして移動体通信の生誕した時代をあらわした。

本展では、歴史的な事件と電信との関わりを表現している。例えば、マルコーニ社の無線を搭載し、SOSの救難信号を世界で初めて打電した事件となったタイタニック号や日露戦争の日本海海戦などであるが、これらに関する直接的な電信機の資料は当館にはなかったため、各国のタイタニック号の記念切手（図6）や通信省発行の「日露戦争戦役記念絵葉書」の図像で補った。

災害の多い日本。今も大地震発生時などで生じる通信網の断絶が懸念されている。過去の災害発生時はどうであったかを再認識する場として、無線コーナーの最後に関東大震災時の無線通信等の状況について表現することとした。併せて、震災をきっかけとして、緊急時の情報収集ツールとして各家庭へのラジオ導入が進められたことを伝える資料を展示した。



図6 記念切手「タイタニック号難破80年（ユーゴスラビア）1992（平成4）年

（5） 船長室—海底に伸びるケーブル、電信線が世界をつなぐ—

19世紀、陸と海と縦横無尽に伸びる電信網で世界はつながっていた。世界最初の海底ケーブルは1851（嘉永4）年にドーバー海峡に敷設され、イギリスとフランスを電信線でつないでいたのである。その後電信網は世界各地に広がり、1871（明治4）年にはデンマークの大北電信会社が敷設した長崎—上海、長崎—ウラジオストック線が開設。日本でも国際通信が可能となった。国内の郵便創業と同じ時期に電信では国際通信が始まった。国際郵便の分野では、まだ在外局を介してのみしか郵便が取り扱えなかった時代である。意外に早い段階で日本は、電信によって世界とつながるきっかけが生まれていたのである。展示ではイギリスとフランスのケーブル見本などを展示し、海中深くに敷設される電信線の実物を間近に見ることができるよう配慮した。

そのほか、19世紀末から20世紀初頭にかけて各国の郵便庁間で取り交わされた国際年賀状⁽⁵⁾、中でも電信の意匠が盛り込まれた図像を紹介した（図7）。当時各国は競って最先端技術の電信を積極的にアピールしていたことが資料をつうじて伝わってくるだろう。

日本が電信と出会ったころ、世界では国際連合が相次いで組織され、1865（文久4）年に世界初の国際連合である国際電気通信連合（旧万国電信連合）が、次いで1874（明治7）年に万国郵便連合が発足している。いずれも通信の国際機関であり、幕末から明治初期、すでに「通信が世界を一つにつなぐ」という時代がやっていたのである。

4 むすびにかえて

当館には我が国の近代化を知る上で重要な資料が数多く眠っている。今回は未着手となってしまうが、長く封印されたままの電気通信資料の原簿との照合を急ぎたい。これにより、来歴などより詳しい情報がわかるきっかけになるだろう。

5 井村恵美「初期の国際年賀状—各国のデザインとその背景 1888-1926—」（『郵政博物館 研究紀要』第8号、2017年3月）



図7 国際年賀状（ドイツ）1909（明治42）年

本展では、19世紀末から20世紀初頭にかけて各国で開発された黎明期の電信機や電話機を紹介した。これらはサミュエル・モールス、グラハム・ベル、グリエルモ・マルコーニらの革新的な発明がきっかけとなり今につながっている。

先人たちのたった一つの新しいひらめきから、たゆまぬ意欲と発見で生まれたモノたちは、今では動かなくなり博物館で眠っているが、ふと足を止め「これはなんだろう？」と触れたくなる不思議な魅力をまとっている。

多くの人に物言わぬ機械と時空を超えて対話してもらいたい。本展をとおして先人たちの「ものづくりスピリット」と「夢を実現化させるパワー」とを体感してもらえれば幸いである。

最後に長年に渡り当館電気通信資料の調査にご尽力くださった皆様、本展開催にあたり資料収集や音声データの作成等に多大なるご指導ご協力を賜った株式会社横須賀テレコムリサーチパーク無線歴史展示室室長太田現一郎氏、横須賀市自然・人文博物館学芸員安池尋幸氏、元東京海洋大学客員教授毛利邦彦氏、イラストを担当してくださったNaffy氏その他関係者の皆様に感謝の意を表する。

（いむら えみ 郵政博物館主席学芸員）

▼表2 展示リスト

明治改元150年企画展「THE STEAMPUNKー螺子巻奇譚ー」 作品リスト (2019年1月1日～4月7日 郵政博物館) 当館収蔵品のみ記載							
	名称	年代	製造国	製造会社等	解説	数量	サイズ(縦×横×高)mm
電信関連							
1	ヒューズ式電信機	1900年代初頭	ドイツ	SIMENS&HALSKE	ミュージックキーボード式	1台	560×830×1640
2	エンボッシング・モールス電信機 A機 (ペリー将来)	1854(嘉永7)年	アメリカ	J.W.NORTON	ペリー提督献上品	1台	427×780×170 (本体)
3	エンボッシング・モールス電信機 B機 (ペリー将来)	1854(嘉永7)年	アメリカ	J.W.NORTON	ペリー提督献上品	1台	427×780×170 (本体)
4	ブレゲ指字電信機 送信機	1861(明治2)年使用	フランス	BREGUET	電信創業時使用品	1台	245×175×100
5	ブレゲ指字電信機 受信機	1861(明治2)年使用	フランス	BREGUET	電信創業時使用品	1台	175×245×205
6	単針式電信機	1872(明治5)年頃使用	イギリス	—	鉄道運行で使われた電信機	1台	105×280×500
7	オーストリア献上品	1861(明治2)年	オーストリア	J.M.EKLING	オーストリア公使献上品	1台	280×410×280
8	ディニエ印字式電信機	1860年頃	フランス	DIGNEY	1866(慶応2)年榎本武揚 オランダより持ち帰る	1台	165×355×410
9	モールス自動受信機	1870(明治3)年推定	デンマーク	ST,N.T.SS,FABRIK	モールス電信	1台	425×345×270
10	モールス自動送信機	1870(明治3)年推定	デンマーク	ST,N.T.SS,FABRIK	モールス電信	1台	265×155×220
11	音響器 (音響式電信受信機) 外	1923(大正12)年	日本	田中電気商会	—	1台	118×170×338
12	音響器 (音響式電信受信機) 中	1943(昭和23)年	日本	東京電機製作所	—	1台	—
13	継電器 / リレー	1892(明治25)年推定	日本	ELLIOTT BROS	—	1台	170×170×125
14	継電器 / リレー	1902(明治35)年	日本	逓信省	—	1台	130×130×150
15	チェッカー印刷電信機	1910(明治43)年推定	アメリカ	L.J.HEALING&CO.LTD	印刷電信	1台	280×280×310
16	チェッカー印刷電信機	1910(明治43)年推定	イギリス	ELLIOTT BROS	印刷電信	1台	340×340×420
17	グレー多重式電信機	1872(明治5)年推定	アメリカ	WESTERN ELCTIRI C MF' .CO	指字電信	1台	380×440×330
18	モールス自動送信機	1870(明治6)年推定	イギリス	ELLIOTT BROS	モールス電信	1台	270×180×235
19	モールス自動受信機	1870(明治6)年推定	イギリス	ELLIOTT BROS	モールス電信	1台	350×340×280
20	モールス軍用電信機	1872(明治5)年	フランス	DIGNEY FRES&DIVERNERESSE	モールス電信	1台	220×340×285
21	エンボッシング・モールス受信機	1870(明治3)年推定	アメリカ	A.S.CHUBBUK	モールス電信	1台	290×240×125
22	シーメンス & ハルスケ中継盤	1875(明治8)年推定	ドイツ	SIMENS&HALSKE	—	1台	660×1030×610
23	ABC電信機	1870(明治3)年推定	アメリカ	W.T.HENLEY	電磁誘導	2台	430×210×270
24	伝信機之布告	1869(明治2)年	日本	伝信局	電信創業の布告文	1枚	510×370
25	創業当時の電信線路監視の図(油彩画)	—	—	—	電信線の監視に当たる役人	1枚	890×1190×60
26	横浜伝信局内部の図 (油彩画)	—	—	—	1869(明治2)年、創業時の伝信局内部のようす	1枚	735×970×60
27	ウィリアム・ヘンリー・ストーン (胸像)	—	日本	—	—	1体	650×980×1000
28	暗号電報解読文	—	日本	—	—	1枚	245×325
29	電報送達紙(田原坂の戦局伝える電報)	(明治10)年	日本	電信局	明治10年3月16日午後4時の記録	3枚	260×180
30	換字暗号	(明治9)年	日本	電信局	—	1枚	270×400
31	馬蹄形磁石	1851(安政5)年	日本	佐久間象山	—	1台	155×125
32	絹巻銅線	1849(嘉永2)年	日本	佐久間象山	—	1台	125×105×40
33	東海名所改正道中記 「伝信局 日本橋新橋迄十六町」	1875(明治8)年	日本	歌川広重 (三代)	伝信局を描く	1枚	360×340
34	東海名所改正道中記 「境木の立場 程か谷 戸塚迄二り九丁」	1875(明治8)年	日本	歌川広重 (三代)	松の木電柱を描く	1枚	360×340
35	幕府留學生の電報 (オランダ)	1867(慶応3)年	オランダ	—	翌日の訪問について	1枚	265×195
36	大北電信会社電報 (上海—長崎線)	1871(明治4)年	日本	大北電信会社	敷設直後の海底電信線を利用	1枚	705×215
37	ダニエル電池 (一部復元)	1881(明治14)年	ドイツ	SIMENS&HALSKE	—	1台	185×800×185
38	ペリー献上電信機実験の図 (油彩画)	—	—	—	—	1枚	100×150×185
電話関連							
39	ベル電話機 (模造)	1876(明治9)年	アメリカ	—	—	1台	100×150×185
40	エリクソン電話機	—	スウェーデン	ERICSSON	—	1台	150×100
41	コリアマル電話機	1888(明治21)年	イギリス	COLLIER MARR	—	1台	480×145
42	ダルソンヴァール電話機	1884(明治17)年	フランス	DARSONVAL	—	1台	485×140
43	ハニングスコーン電話機	1889(明治22)年	イギリス	HUNNINGSCONE	—	1台	200×170
44	ルーレ電話機	1885(明治18)年	フランス	RUE LE	—	1台	230×220
45	ミックスゲネスト電話機	1885(明治18)年	ドイツ	MIX GENEST	—	1台	390×203
46	アーデル壁掛電話機	1887(明治20)年	日本	逓信省工務局	—	1台	390×203170
47	紙幣式壁掛電話機	1895(明治28)年	アメリカ	MASON	—	1台	1650×320
48	ガワーベル電話機	1888(明治21)年	日本	逓信省工務局	—	1台	300×350
49	ガワーベル電話機 (ビーオ型)	1882(明治15)年	イギリス	—	—	1台	210×220
50	磁石式桌上電話機 (レポート)	1800年代	ドイツ	C.E.LEWERT	—	1台	120×200×300
51	磁石式桌上電話機 (エリクソン)	1800年代	スウェーデン	ERICSSON	—	1台	120×200×300
52	国産第1号機	1878(明治11)年	日本	工部省	—	1台	400×140
53	ポスター (自動式電話交換の良し悪しは使い方一つ)	年代不詳	日本	逓信省	—	1枚	790×580
54	ポスター (無駄な通話はおやめ下さい)	1939(昭和13)年	日本	逓信省	—	1枚	790×580
制服 (電信電話関連)							
55	制帽・外套 ロシア	年代不詳	ロシア(旧ソ連)	ロシア郵電庁	—	1式	—
56	制帽・制服 ノルウェー	年代不詳	ノルウェー	ノルウェー郵電庁	—	1式	—
57	制帽・制服 ポーランド	年代不詳	ポーランド	ポーランド郵電庁	—	1式	—
58	制帽・制服 オーストリア	年代不詳	オーストリア	オーストリア郵電庁	—	1式	—
59	制帽・外套 フランス	年代不詳	フランス	フランス郵電庁	—	1式	—
60	制服 フランス	年代不詳	フランス	フランス郵電庁	—	2式	—
61	制帽 フランス	年代不詳	フランス	フランス郵電庁	—	3個	—

無線関連						
62	三興丸模型（展示ケース付）	1937(昭和12)年8月15日	日本	佐藤汽船	—	1台 500×1800×790
63	TYK式無線電話機（展示ケース付）	1912(明治45)年	日本	逓信省	—	1台 570×855×1980
64	第4回戦役記念郵便絵はがき 交通ノ部 兵站電信線ノ架設ノ遼陽軍用通信所ノ 野戦電信線の架設	1905(明治38)年10月15日	日本	逓信省	—	1枚 85×140
65	第4回戦役記念郵便絵はがき 海軍ノ部 日本海海戦ニ於ケル我主力艦隊ノ敵艦邀撃	1905(明治38)年10月15日	日本	逓信省	—	1枚 85×140
66	第4回戦役記念郵便絵はがき 海軍ノ部 旗艦三笠ヨリ見タル砲煙中ノスワロフ	1905(明治38)年10月15日	日本	逓信省	—	1枚 85×140
67	第4回戦役記念郵便絵はがき 海軍ノ部 日本海海戦ニ於ケル敵艦捕獲	1905(明治38)年10月15日	日本	逓信省	—	1枚 85×140
68	記念切手「無線電信発明100年」	1996(平成8)年4月2日	バハマ	—	タイタニック号とカーベシア号	1枚 48×80
69	記念切手「ロイド保険組合300年」	1988(昭和63)年10月18日	バルバドス	—	タイタニック号の沈没	1枚 43×29
70	記念切手「タイタニック号難破80年」	1992(平成4)年4月14日	ユーゴスラビア	—	沈没するタイタニック号	1枚 30×35
71	記念切手「国際切手展」	1999(平成11)年3月19日	アイルランド	—	タイタニック号	1枚 90×150
72	記念切手「船」	1998(平成10)年6月5日	ガーナ	—	タイタニック号	1枚 75×100
73	記念切手「タイタニック号沈没」	1998(平成10)年12月22日	ソマリア	—	出航	1枚 52×62
74	記念切手「タイタニック号沈没」	1998(平成10)年12月22日	ソマリア	—	航海	1枚 52×62
75	記念切手「タイタニック号沈没」	1998(平成10)年12月22日	ソマリア	—	沈没	1枚 52×62
76	記念切手「タイタニック号沈没」	1998(平成10)年12月22日	ソマリア	—	海底のタイタニック号	1枚 103×150
77	記念切手「タイタニック号」	1998(平成10)年10月9日	マダガスカル	—	救助	1枚 160×195
78	記念切手「タイタニック号」	1998(平成10)年10月9日	マダガスカル	—	事故後	1枚 160×195
79	磐城無線電信局長米村嘉一郎受賞の 記念メダル	年代不詳	アメリカ	RCA社	—	1個 95×85
80	鉱石ラジオ（JOAK）	年代不詳	日本	—	—	1台 120×125×145
その他（電信関連等）						
81	国際年賀状	1893(明治25)年	ルクセンブルグ	郵便庁	キュービッド、女神、ルクセンブルグの街	1枚 197×197
82	国際年賀状	1897(明治30)年	ドイツ	ライプツィヒ郵便局	騎馬郵便員、ライプツィヒ市街、電信線	1枚 110×166
83	国際年賀状	1899(明治32)年	ブラジル	郵便庁	記章、賀詞	1枚 114×171
84	国際年賀状	1899(明治32)年	スウェーデン	電電信	ストックホルムの街	1枚 207×185
85	国際年賀状	1899(明治32)年	ホンジュラス	郵政総局	電話する子どもたち	1枚 110×163
86	国際年賀状	1899(明治32)年	アルゼンティン	郵便庁長官	電信機など表した賀状	1枚 199×151
87	国際年賀状	1900(明治33)年	ドイツ	ベルリン帝国郵便局	手紙を運ぶ使者などを描く賀状	1枚 162×217
88	国際年賀状	1901(明治34)年	ギリシャ	郵便庁総局	ゼウスと雷など表した賀状	1枚 117×175
89	国際年賀状	1902(明治35)年	フランス	リヨン郵便電局	花の絵、記章、賀詞	1枚 106×162
90	国際年賀状	1903(明治36)年	ホンジュラス	電電信	電信の女神、電話機、電柱	1枚 120×172
91	国際年賀状	1903(明治36)年	ドイツ	帝国ケルン上級郵便管理局	ライン川、車に乗る郵便配達員	1枚 139×209
92	国際年賀状	1903(明治36)年	ドイツ	ベルリン帝国郵便局	手紙を持つ女神、船、車輪など	1枚 140×192
93	国際年賀状	1903(明治36)年	フランス	セーヌ郵便電局長	電信線の絵、記章、賀詞	1枚 126×174
94	国際年賀状	1904(明治37)年	ドイツ	エムデン電信局	エムデン電信局舎	1枚 89×137
95	国際年賀状	1904(明治37)年	メキシコ	郵政庁長官	地球、メダル、紋章、統計	1枚 201×144
96	国際年賀状	1904(明治37)年	日本	逓信省	逓信省庁舎	1枚 132×191
97	国際年賀状	1905(明治38)年	ドイツ	帝国ケルン上級郵便管理局	ライン川、ケルン大聖堂、郵便配達員	1枚 155×210
98	国際年賀状	1905(明治38)年	ヴェネネズエラ	電信総局	装飾された賀状	1枚 108×135
99	国際年賀状	1905(明治38)年	ドイツ	ライプツィヒ上級郵便管理局	女神、キュービッド、郵便配達員	1枚 120×180
100	国際年賀状	1906(明治39)年	ドイツ	ベルリン帝国郵便局	装飾された賀状	1枚 118×179
101	国際年賀状	1906(明治39)年	ドイツ	ライプツィヒ上級郵便管理局	星降る夜に走る郵便馬車	1枚 182×118
102	国際年賀状	1907(明治40)年	ドイツ	ライプツィヒ上級郵便管理局	鉄道郵便車など	1枚 183×98
103	国際年賀状	1907(明治40)年	ドイツ	ライプツィヒ上級郵便管理局	ホルンを吹く騎馬郵便人	1枚 108×173
104	国際年賀状	1907(明治40)年	コーチシナ (ベトナム)	東洋郵政総局	装飾された賀状	1枚 151×205
105	国際年賀状	1909(明治42)年	ドイツ	ベルリン帝国郵便局	装飾された賀状	1枚 133×197
106	国際年賀状	1910(明治43)年	ドイツ	フランクフルト郵便局	教会、橋、飛行船	1枚 174×112
107	国際年賀状	1910(明治43)年	ドイツ	ライプツィヒ上級郵便管理局	老人からホルンを受け取る天使	1枚 102×165
108	国際年賀状	1911(明治44)年	トルコ (旧オスマン帝国)	郵便電庁	記章、賀詞	1枚 124×172
109	国際年賀状	1912(大正元)年	ブラジル	電信庁長官	電柱の絵、賀詞	1枚 119×172
110	文明滑稽寿語録	1871(明治4)年	日本	蕙斎芳幾	—	1枚 599×713
111	世界電信線路図	1906(明治39)年	スイス	—	—	1枚 595×840
112	海底ケーブル見本（フランス）	1875(明治8)年	フランス	—	—	1台 305×435×90
113	海底ケーブル見本（イギリス）	1904(明治37)年	イギリス	—	—	1台 580×1000×80
114	海底敷設線の図（油彩画）	年代不詳	日本	—	海底敷設線沖縄丸	1枚 850×1050×50
115	掛時計	1952(昭和27)年	日本	多度津郵便局	—	1台 410×115
116	掛時計	年代不詳	日本	逓信省時代	—	1台 520×130
117	エンボッシング・モールス電信機 （ペリー将来）（機能模型）	年代不詳	日本	—	—	1台 427×780×170 (本体)
118	ブレゲ指字電信機（模型）	年代不詳	日本	—	—	1台 175×245×205
119	磁石式桌上電話機（バイユー）	年代不詳	フランス	—	—	1台 200×270×300